



あなたと博物館

HIRATUKA CITY MUSEUM

'92 1月号



写真：寄贈された玩具資料（中田コレクション）より

明けましておめでとうございます。平成4年の新春を皆さんと共に慶び申し上げます。昨年も8万人に近い皆さんにご来館いただきました。ありがとうございました。

国際化の時代を迎えておりますが、昨年10月には、バングラデッシュ・ブータン・中国・インド・タイ・フィリピン・ベトナム等アジア太平洋地域の19か国の国立博物館館長・教育担当官等関係者28名をお迎えし、情報交換の機会を持ちました。閉会後、おひとりおひとりから「ナイス、ベリーグッド、平塚ミュージアム」のごあいさつをいただき、無事の帰国を祈ってお別れしましたが、つくづく地球はひとつ

ということを痛感いたしました。

市民の皆さんからは、昨年も貴重なたくさんの資料を寄贈いただきました。これらの資料の活用につきましては、積極的に市民の皆さんに還元すべく、新年度の活動計画に反映したいと考えております。

今年の干支（えと）は甲（さる）ですが、我がまち平塚も還暦を迎え、記念すべき市制施行60周年の年になりました。この年にあたり、職員一同、博物館が多くの市民に支えられて成り立っていることを肝に命じ、益々の充実を目指して頑張ります。よろしく応援をお願い致します。

博物館長 吉川 功

4月から新しくなる1階常設展示の紹介（3回目）

「あなたと博物館」11月号より、新しくなる展示の内容についてご紹介しています。今回は、その2回目で、「相模川の舟」と「川の石・山の石」の2つのコーナーについてお話しします。

4. 「相模川の舟」

「アユの川」では、アユをめぐる相模川の生き物とともに、アユと人間とのつながりをアユ漁の諸用具で紹介します。

相模川は、承和2年（835）6月29日の太政官符には「相模鮎河」と記されています。ここにある「鮎」は魚のアユのことと考えられ、相模川は古くからアユの川として知られていたのが推測できます。

相模川と人間の生活とのかかわりは、アユを中心とする漁撈活動と、もう一方では川を物資の輸送路として利用する舟運があげられます。すでに天正2年（1574）の北条氏印判状などからは舟運の存在がうかがわれ、その後の江戸時代の諸記録には高瀬舟や漁舟のことが記されています。

流域に鉄道が敷かれるまでは、一度に大量の物資を運ぶには舟がもっともすぐれた手段で、高瀬舟は相模川上流から炭や薪、米などを河口の須賀に運び、須賀からは日用雑貨類などを積んで上りました。須賀と江戸などの間には千石船と呼ばれる弁才船が行き来しており、高瀬舟はこの弁才船と内陸とを結んでいたわけです。

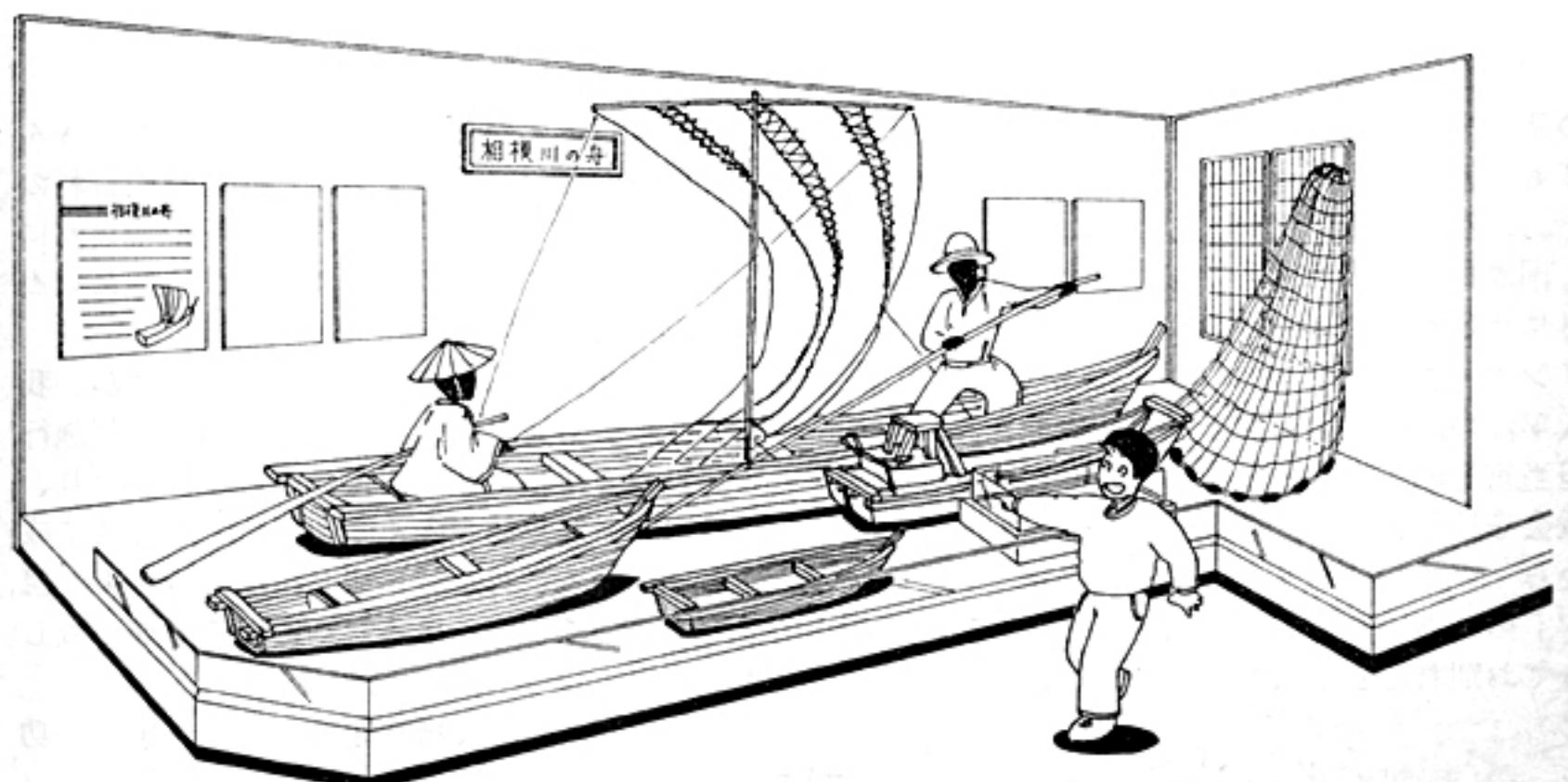
アユ漁などに使われる漁舟は、サンバと呼ばれています。現在も使われ、この舟から投網を打ったり、釣りをしたりしています。

また、昭和30年代までは渡し舟も使われていました。江戸時代には、相模川には橋がなく、川筋全体では大小含めて60カ所以上に渡し舟がありました。馬入の渡しなどの大きな渡舟場には、馬舟といって馬や荷車などものせる舟もあったのが特色です。

さらに、大正時代末からは、川底から砂利を探るために舟も使われるようになりました。相模川の砂利は、この時代には鉄道で運ばれ、東京・横浜などの土木建築工事に使われました。

このように相模川の舟には、さまざまな種類がありましたが、交通機関の変化などによって舟は次第に姿を消し、今では川筋には木造舟を作る舟大工もいなくなりました。

このコーナーでは、これらの舟を実物や模型を使って紹介し、相模川と人々の暮らしのかかわりを考える資料とします。



※展示替えのための工事が、1月から3月まで行われます。新しい展示の公開は、4月からとなります。どうぞ、ご期待下さい。

5. 「川の石・山の石」

相模川は、富士山の伏流水や関東山地、丹沢山地から流れ来る水を集めています。川の水源地ともいえる山からは、水ばかりではなく、流れによって石も運ばれています。川原にあるたくさんの石は、こうした水の流れで碎かれながら下流へと運ばれたものです。

人々は長い歴史のなかで、川原の石、さらにその源にある山の石をさまざまに利用してきました。たとえば小さな川原の石は、網のおもりにしたり、石斧の材料にしたりし、大きな山の石は、人の力で切り出して加工し、石臼にしたり、石仏に彫ったりしました。

一見、川とは無関係に思える石も、このように考えると川と密接な関係をもち、人々の生活とも深くつながっているのがわかります。

そこで、このコーナーでは人間が石をどのように利用してきたかに焦点をあててみました。

具体的には平塚周辺で見ることができる石製のものをとりあげ、その材料の産地とともに紹介します。出土した網の石錘や石斧、さらに今でも路傍や社寺などに建立されている石仏などです。

とくに今回の展示替では、市内にある多くの石仏のなかから8基を選んで展示するのが特色です。石仏は信仰の対象でもあり、実物を展示するわけにはいきませんので、実物から型をとって複製を作ります。すでに型取りの作業は終っています。

人間が石をどのように利用してきたか、そして、その石はどこから運んできたものか、展示を見ながら思いをめぐらせてください。



《行事案内》

1月の行事予定

5	日	漂着物を拾う会 (花水川河口午前8時~9時)
11	土	土曜観察会
12	日	相模川の生き立ちを探る会 (七沢)
19	日	石仏を調べる会
26	日	相模川を歩く会(中津)

2月の行事予定

8	土	土曜観察会 天体観察会
9	日	漂着物を拾う会 (花水川河口午前8時~9時) 相模川の生き立ちを探る会 (箱根)
16	日	石仏を調べる会
23	日	相模川を歩く会(寒川)

※休館のお知らせ

- 1階の常設展示が新しくなります。そのため、以下の期間が工事期間となり、博物館は、休館となります。

1/5~3/31

《博物館刊行物案内》

博物館事業の日頃の成果が収録された刊行物が以下のように発布されています。その一部をご紹介します。お求めになりたい方は、受付にお申し出下さい。

ガイドブック 4	地層と化石	400円
" 6	平塚の遺跡	500円
" 7	平塚四季の自然	500円
" 8	平塚の石仏めぐり	550円
" 9	湘南の樹木	550円
" 10	星空の12か月	600円
" 11	湘南の動物	600円

特別展の図録	相模湾の魚と漁労	500円
	街の生きものたち	500円
	飛驒の民具	300円
	相模川流域の横穴墓	800円
	相模川流域の弥生時代	850円
	林の生きものたち	600円
	平塚の仏像	650円
	野鳥入門	750円
	花巻・くらしと文化	1000円
	タンポポと春の花	700円

湘南植物誌	1~3	800円
" 4		850円
シダ植物標本目録		500円
大磯丘陵の地質	2~3	900円
石仏	7~11	400円
王子台遺跡発掘調査報告書		500円
赤坂遺跡発掘調査報告書		650円

※その他、所蔵資料目録・動物資料目録・博物館年報・研究紀要「自然と文化」等があります。



「あなたと博物館」16巻10号 通巻184号 c3000 発行 平塚市博物館
〒254 平塚市浅間町12-41 TEL(0463)33-5111 FAX(0463)31-3949